第18回日本ホリスティックナーシング研究会
2015年9月6日(日) キャンパスプラザ京都

外なる自然／内なる自然

–いのち･いやし･いのり–

棚次正和（京都府立医科大学）

講演の内容

Ⅰ　ホリスティックとは何か

Ⅱ　ナーシング（看護）と
ネイチャー（自然）の関係

Ⅲ　ナイチンゲールの全人像を問う

Ⅰ　ホリスティックとは何か

- ギリシア語 holos

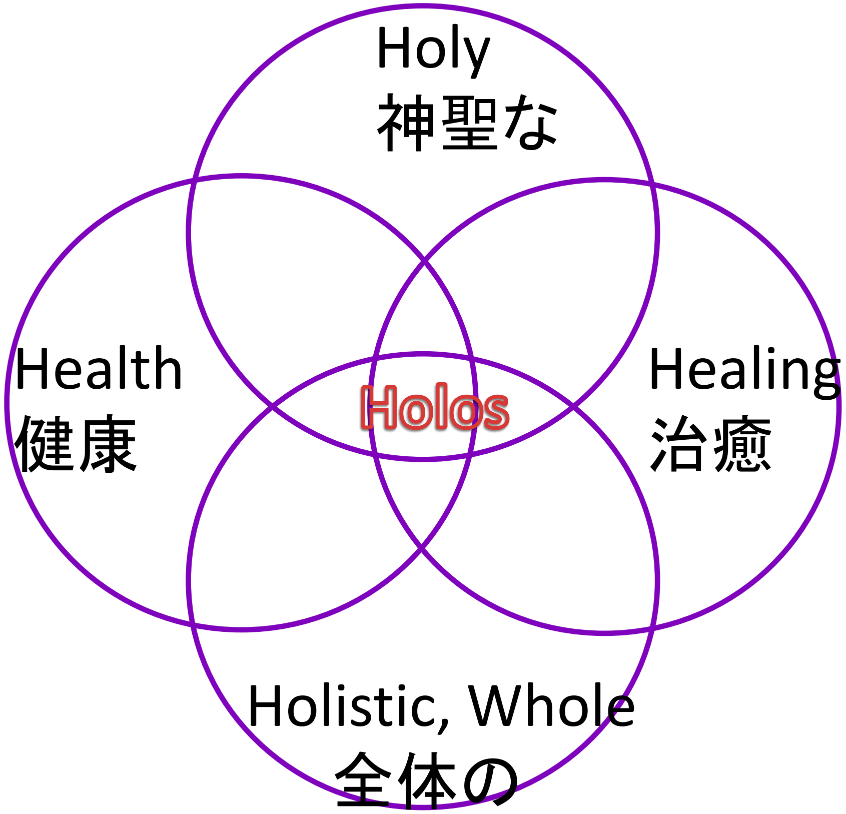
  ↓
- 英語 holistic, whole（全体の）

  healthy, hale（健康な）

  healing（治癒、癒し）

  holy（神聖な）

全体＝健康＝治癒＝神聖



【ホロス(Holos)の概念】

「ホロス」の意味

- 全体　　量的全体と質的全体「<u>全き</u>」
  complete　　perfect
- 健康　　心身が良好な状態より<u>以上</u>
  （心身を超えた次元は？）
- 治癒　　治癒の<u>原理</u>に関わる
  （なぜ治癒するか？）
- 神聖　　人間の<u>存在根拠</u>・尊厳に関わる
  （なぜ人間存在は尊いのか？）

ホリスティックが意味する「全人」

- WHO憲章前文の「健康」定義 、1998年改正案

「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」

a Δ state of complete physical, mental Δ and social well-being.....

dynamic spiritual

全人とは、人間の存在構造全体ということであるから、「肉体的、精神的、霊性的及び社会的」であるということ。

霊心身(spirit-mind-body)の人性三分説 (trichotomy)

- 「フィジカルな健康は疼痛からの解放であり、メンタルな健康は情念からの解放であり、スピリチュアルな健康はエゴイズムからの解放である。」（ギリシアのホメオパス、ジョージ・ヴィソルカス）
- しかし、Spiritual とは、いかなることか？
  ⇒ Spirit（＝霊、霊魂、ひ、たま、たましひ）
  ●人間存在の核心〔最内奥の存在構造〕
  ●人間の尊厳の根拠〔聖なる価値〕
  ●生命の根源〔生きるエネルギーの源〕
  ●自由意志と創造力の源泉〔行為の自律〕

紅葉の御所（建春門）

Ⅱ　ナーシング（看護）と ネイチャー（自然）の関係

- Nurture is above nature.「産まれより育ち」
- nurture＝nursing　養うこと、滋養物を与える
- nurture, nursingとnatureの関係を捉え直す

- Natureが持つ四重の意味

(1)それぞれの自然物をしてかかるものたらしめている所以のもの。

(2)ひろく自然の世界全体をしてかかるものたらしめている所以のもの。

また、以上から転じて

(3)–1に対応して–それぞれの自然物それ自身、ないしは一般に事物。

(4)–2に対応して–自然的世界それ自身。

natureの両義性に着目！

自然物や自然界を存立可能ならしめている「自然原理（自然力・自然本性）」

自然原理によって存立せしめられている「自然物や自然界」

- 「自然原理」と「自然物・自然界」は、「産む自然」と「産まれた自然」と表現できる。（垂直方向に働く自然）
- そこに「外なる自然」と「内なる自然」の対立が重なり合った。

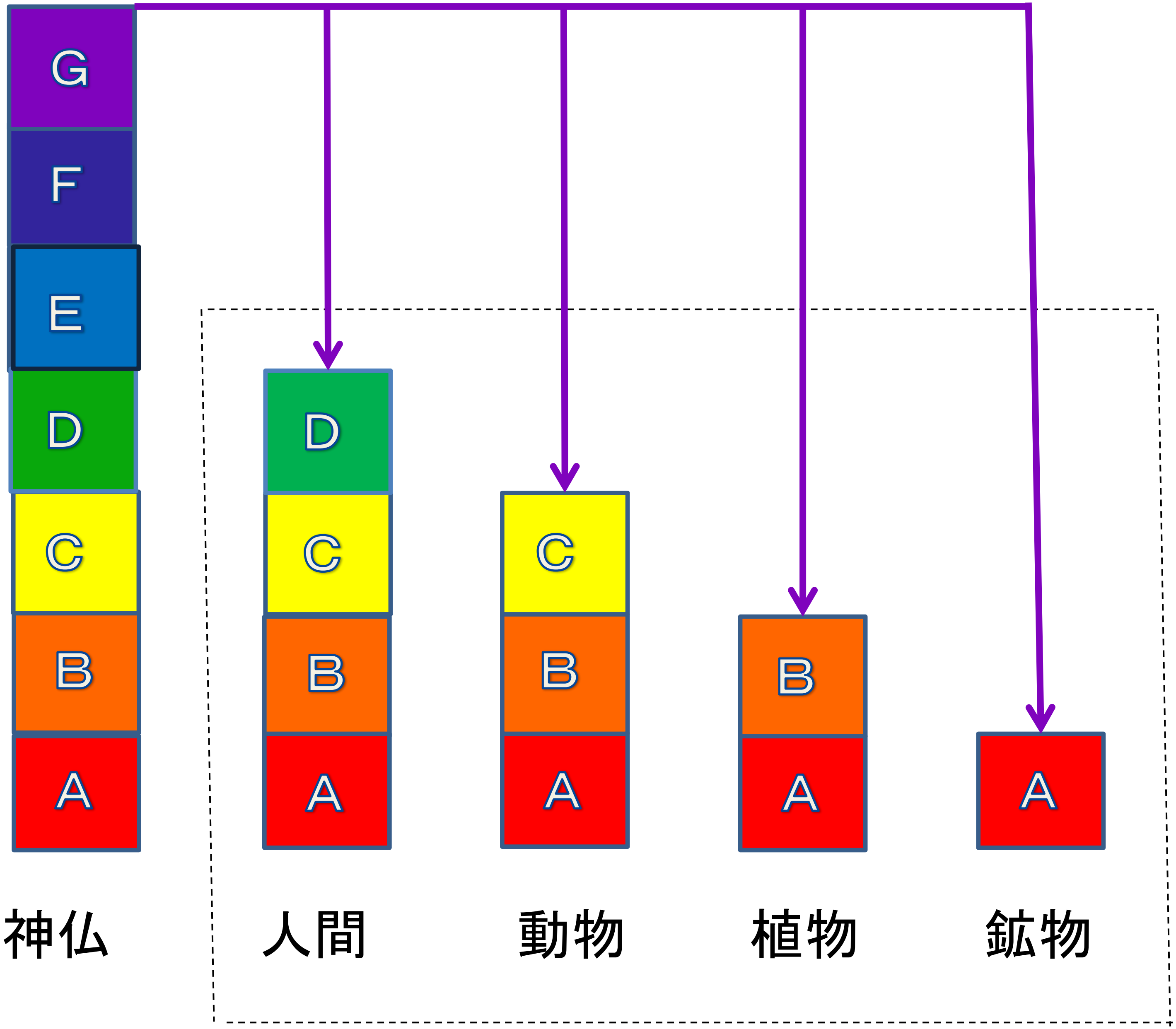
※nature＝natura(natus ＋ -ura産まれて持つもの）

自然（nature）の二義

第一義：自然原理（自然力・自然本性）
natura naturans（産む自然）

人間　　　　　　　　　世界
さらに内なる自然　　　内なる自然
↓　　　　　　　　　　↓
（身体・感性）
内なる自然 ←→ 外なる自然

第二義：自然物・自然界
natura naturata（産まれた自然）


G
F
E
D
C
B
A
D
C
B
A
C
B
A
B
A
A
神仏
人間
動物
植物
鉱物

看護は自然活用･自然防御の作法

- 自然活用

  自然の働きを活性化させるために看る

  （自然治癒力を発現させる）

  ⇒ 医療･看護の場のエネルギーを高める

  祈り･瞑想と共に患者と接する

- 自然防御

  自然の働きを妨げる障害物から護る

  （自然治癒力に対する障害を取り除く）

  ⇒ 患者の物理的環境･人間的環境を整える

Photograph.pro
神泉苑

Ⅲ　ナイチンゲールの全人像を問う

Florence　Nightingale (1820-1910)

クリミアの天使
近代科学的な看護の提唱者
看護への統計学の導入者
社会改革者（女性解放）
病弱な生涯を送った隠遁者

◇ナイチンゲールの病気観

およそ病気というものは、その経過のここかしこで程度の差こそあれ、修復の作用過程なのであり、必ずしも苦痛が伴うとは限らないのです。つまり、何週間も、何ヶ月も、時には何年も前から気づかれずに起こっていた、毒され衰弱する過程を改善しようとする自然の業であり、したがって、〔神が定めた本来は治るものである〕病気の終結は、それに先行して刻々と進行していた病気とその修復作用〔にかかわる看護の過程〕のなかで決まってくるのです。

（『看護覚え書』小林章夫・竹内喜訳、1頁）

◇ナイチンゲールの看護観

看護とは、新鮮な空気や陽光、暖かさや清潔さや静かさを適正に保ち、食事を適切に選び管理する–すなわち、患者にとっての生命力の消耗が最小になるようにして、これらすべてを適切に行うことである、という意味を持つべきなのです。

（『看護覚え書』小林章夫・竹内喜訳、2頁）

◇ナイチンゲールの科学観

法則とは「神の存在の絶え間ない顕現」に他なりません。（『真理の探究』小林章夫監訳132頁）

「法則は、原因でも理由でも力でも強制力でもなく、一般的な公式、統計学的な計算表の類に過ぎません。法則とは、私たちを神から引き離すものではなく、絶え間なく神のもとへと導いていくものなのです。」

（『真理の探究』小林章夫監訳142頁）

◇ナイチンゲールの宗教観（1）

「私たちの宗教信条は、こうです–すなわち全能かつ永遠の愛と知と正義の霊が、明確な法則に従って愛と知と正義の恵みを享受することのできる人間を存在させることで、自らを現していると信じること、そして人間は–自分自身の、またお互いの神性を発達させることが可能な存在であり–その人間が生きている宇宙には、明確な法則に従って、人間が自らの活動を通して、人間の幸福に向かって進歩することを保証する手段や誘因が与えられていると信じることです。」

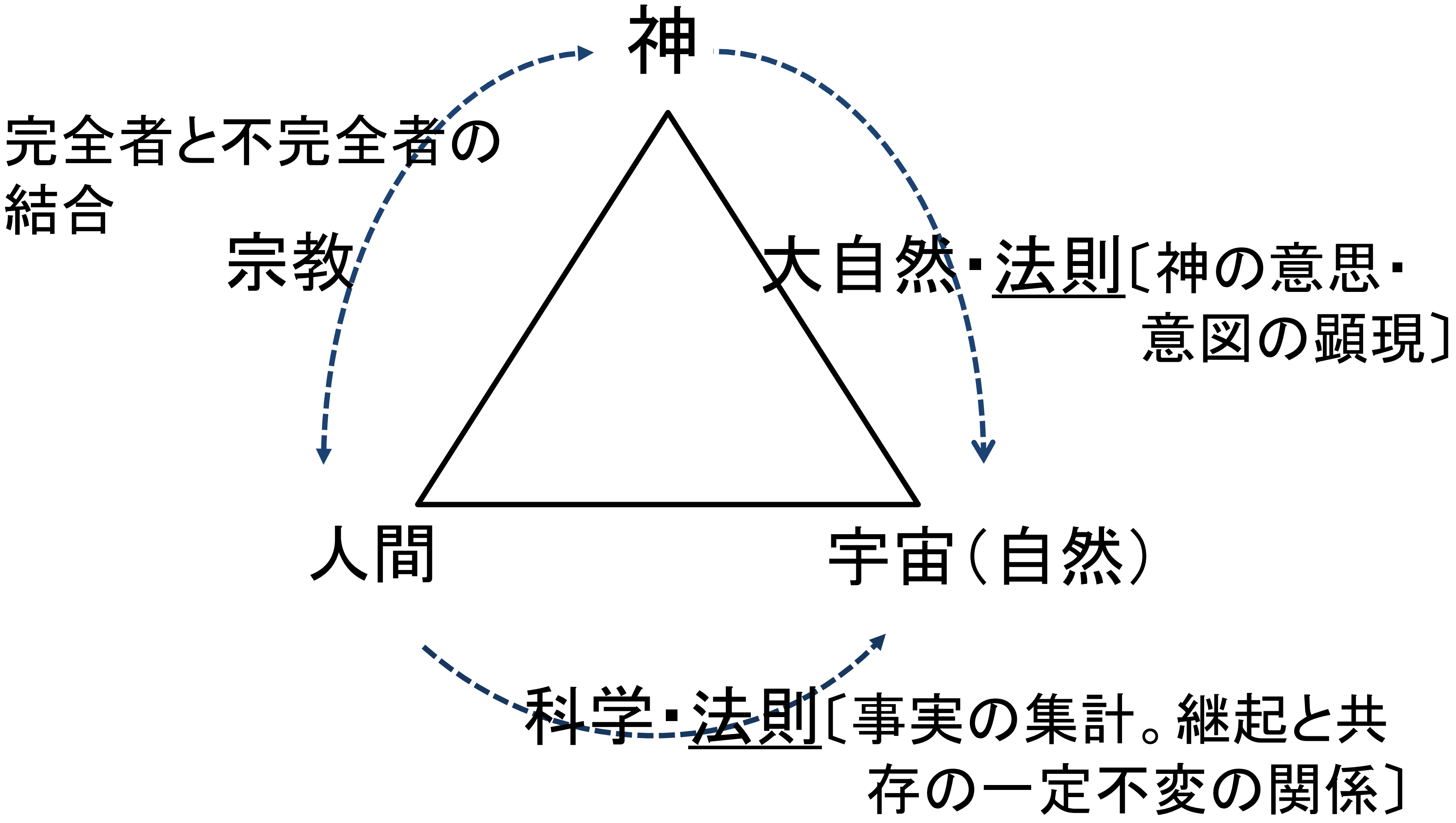
（『真理の探究』小林章夫監訳290頁）

◇ナイチンゲールの宗教観（２）

「一人一人の人間は全体の一部であり、人類の、そして神の子の一部です。人間は目標をめざす者、すなわち父なる神そのもの、父なる神がもつものを獲得する者です。人間は神のうちに存在し、真理に近づき、真理を知る程度に応じて、神と一体となります。人類の場合、一つの全体を構成するそれぞれの異なる部分が、一つの目的に貢献しているのです。」

（『真理の探究』小林章夫監訳293頁）

◇神・人間・宇宙、科学と宗教


神
完全者と不完全者の結合
宗教
大自然・法則〔神の意思・意図の顕現〕
人間
宇宙（自然）
科学・法則〔事実の集計。継起と共存の一定不変の関係〕

◇ナイチンゲールは何を目指したか

人々をして永遠の生命（神＝大自然Natureから与えられる心身の滋養物nurture）に気づかしめ、その働きを患者において看護ることとして、看護の仕事を位置づけた。
ナイチンゲールが目指した科学的看護は、霊性（宗教性）の目覚めへの橋渡しの役割を担うものである。
科学と宗教の双方を同時に視野に収めたという意味で、彼女はホリスティックナーシングの先駆者であり、19世紀の時代状況（現実）と理想のギャップ〔ex.身分、女性、病弱〕に悩みながら、そのギャップを克服する方向性を見通した予言者であった。

御清聴ありがとうございました